

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年12月17日

BMJ:

新型コロナとの付き合い方：

検査、ワクチン、マスクは依然として決定的な対策である

【松崎雑感】

イギリスでも日本でも同じ状況です。

検査、ワクチン、マスクが感染防止に重要だという事です。

新型コロナとの付き合い方：検査、ワクチン、マスクは依然として決定的な対策である

Arshad Z, Nazareth J, Pareek M. **Learning to live with covid-19: testing, vaccination, and mask wearing still play a key part in managing the pandemic. BMJ.** 2023;383:p2943. Published 2023 Dec 14.
doi:10.1136/bmj.p2943

新型コロナに対する社会の関心は低下している。しかし、検査、ワクチン、マスクは冬を迎えた現在引き続き重要な対策となっている

この二年間で新型コロナの死亡と入院リスクはしっかり低下してきた。そのため社会の関心は薄れている。

しかし、新型コロナは引き続き流行を続けている。NHSに負荷がかかる冬を迎えた。われわれはどのような備えが必要か？

気温が下がるとインフルエンザも新型コロナも流行しやすくなる。9月の新型コロナ陽性率は、この6～7月の5倍となっている。

同時にBA.2.86 (Pirola) とJN.1という新たな変異株も出現している。BA.2.86のACE2受容体親和性は以前のオミクロン株よりも大きくなっているため、感染力が高まっている。

新型コロナ感染の現状を正確に把握できなくなっている。昨年1月には、1日あたりの新型コロナ検査数は100万件以上だった。しかし現在では1日5000件まで激減している。流行状況のサーベイランス、下水サーベイランスも激減しており、流行トレンドがほとんどつかめなくなっている。

英国健康安全保障庁が来年3月までは検査とサーベイランス活動を増やすと発表していることは喜ばしい。冬だけでなく、一年中新型コロナが流行しているという現状を見ると、さらに長期的にサーベイランスを続けることが必要である。

新型コロナが今後数か月は増加を続ける見込みであり、どのような対策を行う必要があるかを述べる。ワクチンは重症化防止に決定的な役割を果たした。

政府は、重症化リスクの高い人々に対して、秋にブースター接種を行うよう推奨してきた。しかしながら、人口の5分の一を占める50～64歳の人々はブースター接種の対象から除外されており、従来のブースター接種計画より大きな後退となっている。

これは費用効果にもとづいて接種対象を選択するという初めての推計手法が導入されたことに基づく。しかしこの推計は、ワクチン接種により入院率を減らすことだけを考慮したものであり、接種対象とならないヘルスケアワーカーが感染により病欠となったりロングコロナとなるリスクを考慮していない。

4回目のワクチン接種対象となっていたイギリス国民の77.7%は4回目接種を済ませている。しかし18～39才層で4回目接種を完了している人々は半数に満たない。経済的貧困層と一定のエスニックグループの人々も同様に接種率が低い。

これらの人々のワクチン接種率を向上させるためには、コミュニティの信頼されているリーダーを通じて、ワクチン接種の安全性と有効度をしっかり説明してもらうことも必要である。

重症化リスクの高い人々だけでなく、ヘルスケアとソーシャルケアに携わる人々に対するワクチン接種も重要である。

これらの人々の8割前後は、2回接種を完了しているが、昨年9月から今年2月の間にブースター接種を受けた人々は42.1%にとどまっている。インフルエンザワクチン接種率も21～22年シーズンの60.5%から22～23年シーズンの49.9%に低下している。

ヘルスケアワーカーのワクチン接種率はNHSトラスト間で大きなばらつきがある。このばらつきを解消するためには、地方ごとのNHSトラストがワクチン接種率向上計画を作って実行することも必要だろう。高いワクチン接種率を実現しているトラストの経験に学ぶ必要もあるだろう。

NHSのブースターワクチン接種対象者の選択は、コストベネフィット解析に基づいて行われているが、NHS外のプライベートなワクチン接種を制限するものではない。2012～13年期には、全国的薬局チェーンがプライベートで、8万5千人のインフルエンザワクチン接種を行っている。

これはNHSによって接種対象から除外された人々における接種希望が強いことを示している。NHSが決めた今回のインフルエンザワクチンとコロナワクチンの対象者はほぼ重なっており、プライベートでコロナワクチンを受けたいと希望する人々が多いことは間違いないだろう。

政府当局とワクチン製造会社は、コロナワクチンのプライベート接種について検討しているようだが、結論はまだ出ていない。

NHSの決めた接種対象者内でも接種率に差があることを考えると、NHSベースから除外されてプライベート接種しなければならない人々が多くなれば、健康格差はさらに拡大すると懸念される。

マスクは呼吸器系ウイルスの侵入防止に大きな効果がある。以前は、公衆の集まる場所でのマスク着用が義務化されていた。

しかし、現在、そのような場所においてはマスク着用を「考慮すること」という推奨的表現に変わっている。自分自身の判断で着用するかしないかを決めてくださいということである。

最近の流行増加時には、医療機関でのマスク着用を再義務化するNHSもあったが、そうでないNHSもあり、患者と医療関係者に混乱をもたらした。

したがって、ヘルスケアとソーシャルケアの場では、スタッフの感染、病休、ロングコロナによる医療圧迫を減らすために、全国的にマスク着用を義務化することが望ましいだろう。

検査がほとんど行われないうえに感染者が激増する恐れが高い現在、この対策はとても重要だと考える。

新たな変異株が出現し、感染者の激増が起きることは、コロナとともに暮らすという現在の在り方がこのままではいけないと、見直しを求める契機となるだろう。

パンデミックの初期に大きな役割を果たしてきたサーベイランス、マスク着用、ワクチン接種を、今後も引き続き推進強化することは、この全世界的な新型コロナ流行に対する最良の対策となるだろう。